

第376回
日本泌尿器科学会新潟地方会
《プログラム・抄録》

日時：平成27年12月5日（土）午後3時00分
会場：新潟グランドホテル 5階 『波光の間』
新潟市中央区上大川前通3ノ町 025-228-6111

次回 第377回新潟地方会予告

日時：平成28年3月19日（土）午後3時

会場：未定

演題申込期限：平成28年2月19日（金）

- ※ すべてPCのみの発表とさせていただきます。
- ※ 口演時間は、7分。討論3分（時間厳守）

951-8510 新潟市中央区旭町通1の757

新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野

日本泌尿器科学会新潟地方会

TEL：025（227）2289／FAX：025（227）0784

15:00~15:40

座長 丸山 亮

1. 10年間放置された膀胱瘻カテーテルにより、膀胱結石、両側水腎症を来した一例

柏崎総合医療センター 泌尿器科
風間明、羽入修吾

症例は43歳男性。1998年頃、重機による骨盤外傷、尿道損傷のため膀胱瘻カテーテル管理となった。しかし、2005年を最後に通院を自己中断し、以後、挿入された膀胱瘻カテーテルを放置していた。2015年8月、食思不振・発熱を主訴に当院を受診し、CTにて膀胱結石と両側水腎症を認めた。閉塞性腎盂腎炎、腎後性腎不全の診断で緊急入院し、両側腎瘻造設を行った。本症例について、膀胱結石治療の経過および若干の文献的考察を含めて報告する。

2. ミュラー管嚢胞の一例

新潟県立中央病院 泌尿器科
石川晶子 水澤隆樹 片桐明善

患者は8歳男児。7歳時の左陰嚢水腫根治術の際に下腹部腫瘤を指摘され、精査でミュラー管嚢胞と診断した。また、左腎無形成または低形成を指摘された。陰嚢水腫は計2回の手術にも関わらず再発を繰り返したが、ミュラー管嚢胞との関連は不明であった。嚢胞による圧迫が原因と考えられる頻尿の訴えがあり、腹腔鏡下に嚢胞摘出術を行った。術後頻尿は改善し、陰嚢水腫再発も認めていない。本例につき文献的考察を加え報告する。

3. 自傷行為による陰茎体部の全周性包皮切除の1例

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野¹⁾、形成・再生外科²⁾
白野侑子¹⁾、田崎正行¹⁾、中島順子²⁾、野澤昌代²⁾

55歳男性、統合失調症。飲酒後、家庭用はさみで陰茎包皮を全周性に切除。受傷6時間後に出血性ショックのため、ドクターヘリにて当院へ救急搬送された。全身麻酔下に止血術と白膜修復術を行ったのち、形成外科医による全層植皮術が行われた。円筒状に切除された陰茎包皮を反転し、皮下組織を切除して陰茎をつり上げた状態で植皮を行った。陰茎包皮は全生着し上皮化した。陰茎自己切断について文献的考察を加え、自験例を考察する。

4. 横紋筋肉腫に対し膀胱全摘回腸導管を施行後、禁制型代用膀胱を造設した2例

神奈川県立こども医療センター 泌尿器科
秋山さや香、池田敬至、伊藤和代、金宇鎮、山崎雄一郎

幼児期に膀胱横紋筋肉腫に対して放射線療法や膀胱全摘を含む集学的治療ののち、回腸導管による尿路管理を行っていた9歳及び22歳の女性。腫瘍の再発や上部尿路障害なく経過し、ストーマフリーとなることを希望されたため、回腸導管から禁制型代用膀胱への尿路変向を施行した。代用膀胱は回腸導管及び結腸を使用。導尿路は回腸導管の一部をMonti tubeにし、臍に作成した。術後の失禁に対しては導尿路へのデフラックス注入が有効であった。

5. 後腹膜腫瘤を形成した多発血管性肉芽腫症（GPA、旧 Wegener 肉芽腫症）の 1 例

長岡赤十字病院 泌尿器科¹⁾、内科²⁾
池田正博¹⁾、鈴木一也¹⁾、米山健志¹⁾、伊藤朋之²⁾、佐伯敬子²⁾

症例は 65 歳、男性。2013 年から中耳炎、多発関節炎、PR3-ANCA 陽性を認め、当院内科で多発血管性肉芽腫症の診断でステロイドとメトトレキサートで治療されていた。2014 年 8 月より指摘されていた左後腹膜腫瘤の増大を認めたため、2015 年 4 月に当科で経皮的生検を行い、非特異的な肉芽腫の診断であった。同年 7 月に腹腔鏡下後腹膜腫瘍切除を行い、病理では炎症性細胞浸潤を伴う肉芽腫で GPA と矛盾しないとの診断であった。後腹膜腔に腫瘤形成する GPA は稀であり、文献的考察を加えて報告する。

6. 去勢抵抗性前立腺がんに対するエンザルタミドおよびアピラテロンの使用経験

新潟県立がんセンター新潟病院 泌尿器科¹⁾、木戸病院 泌尿器科²⁾、新潟臨港病院 泌尿器科³⁾
斎藤俊弘¹⁾、山崎裕幸¹⁾、ビリーム・ウラジミル¹⁾、
小林和博¹⁾、谷川俊貴¹⁾、北村康男²⁾、糸井俊之³⁾

2014 年 7 月以降、当科で去勢抵抗性前立腺癌に対してエンザルタミド 39 例、アピラテロン 11 例が使用された。うち、ドセタキセル前のタイミングで使用された症例がそれぞれ 9 例、1 例であった。多少なりとも PSA の下降がみられたのはエンザルタミド 39 例中 31 例、アピラテロン 11 例中 5 例であった。ドセタキセル前に使用した症例で良好な効果を示す傾向がみられた。

7. ロボット支援前立腺癌手術の導入初期結果 -開腹手術との比較-

新潟市民病院 泌尿器科¹⁾、済生会三条病院 泌尿器科²⁾、新潟大学地域医療教育センター
魚沼基幹病院 泌尿器科³⁾、新潟大学大学院 腎泌尿器病態学分野⁴⁾
今井智之¹⁾、川上芳明¹⁾、筒井寿基¹⁾、渡辺竜助²⁾、
金子公亮²⁾、西山勉³⁾、笠原隆⁴⁾、瀧澤逸大⁴⁾

新潟市民病院では LRP を行うことなく 2014 年 8 月から RARP を開始し、2015 年 10 月までに 26 例を行った。これを 2004 年からの開腹 RP22 例と比較した。RARP と開腹 RP では、手術時間 232±50 vs 200±55 分とやや開腹術が短かったが、後半の RARP の平均は 204 分とほぼ同等であった。出血量は 317±270 vs 1431±857ml。切除断端陽性は 35% vs 50%で、うち前立腺尖部が陽性だったのは 50% vs 82%だった。RARP は腹腔鏡の経験があれば LRP を経験せずとも習得が可能であり、開腹 RP に比べて出血量が少なく、前立腺尖部断端切除がイメージ通りに行われやすいと考えられた。

8. 当院泌尿器科外来完全予約制移行後の現状

済生会新潟第二病院 泌尿器科
吉水 敦、車田 茂徳

2015 年 4 月より、当院泌尿器科外来は受診患者の外来完全予約制へ移行した。もちろん救急患者は受け入れている。現時点での利点としては、外来診療の終了予定時間が予測しやすくなった・あらかじめ FAX での患者情報に目を通していているので検査等の流れがスムーズになった・その情報を医療秘書にメモとして入力してもらい医師の患者情報入力の手力が軽減された等のメリットがある。一番問題となる収入であるが、特に大きな減収にはなっていない。医師不足・勤務医の高齢化・出産や子育てを控えた女性医師の増加等を考えると限られた労働資源を有効活用することが重要である。今後、当院泌尿器科はさらなる外来の整備や効率的運用と女医や高齢医師と手術ができる勤務医との外来・入院の役割分担を進めていく予定である。

《休憩 16：20～16：40》

新潟泌尿器科同窓会総会

16：40～17：30

[会場 5階 波光の間]

新潟地方会・同窓会合同懇親会を総会終了後3階「悠久の間B」で行います。

第1回泌尿器科セミナー

謹啓 時下、先生方におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
この度、下記要領にて学術講演会を開催させていただき運びとなりました。
諸事ご多用の事と存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席賜ります様、
何卒宜しくお願い申し上げます。 謹白

日時

2015年 12月5日(土) 17:50～19:00

会場

新潟グランドホテル 5階 波光の間

新潟市中央区上大川前通3ノ町 TEL 025-228-6111

◆製品紹介

17:50～18:00

『 前立腺癌治療剤 イクスタンジカプセル 』

◆特別講演

18:00～19:00

座長

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野
教授 富田 善彦 先生

『 肉眼と放射線画像でわかる腎腫瘍の病理 』

演者

東京女子医科大学病院 病理診断科

教授 長嶋 洋治 先生